

平成25年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

整理番号				4 - 2 - 3			
事務事業名		市道整備事業		担当課係		都市整備課	
総合計画上の位置付け	大項目	6. 「街が輝く」		記入担当者			
	中項目	①快適に暮らせる生活基盤の整備		内線等			
	小項目	1. 生活道路網等の整備		E-mail			
事業の実施主体		市（委託・補助事業含む）		事業区分		臨時事業	
事業予算費目	款	8	土木費	項	3	道路橋梁費	
	目	2	道路橋梁維持費	事業	2	道路補修事業	
開始年度		年度	根拠法令・要綱等	道路法・道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律 地域の元気臨時交付金(地域経済活性化・雇用創出臨時交付金)制度要綱			

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 市道等の全利用者を対象とする。
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) 公共投資の地方負担が大規模であり、経済対策の迅速かつ円滑な実施を図るため、国の経済対策の一つである「地域の元気臨時交付金」を活用し、道路及び排水路の整備を行うことで、浸水被害の軽減など安全性の確保や利便性の向上を図るものである。
事業の内容 (内容・手法等)	(こういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 国(内閣府)の交付金を受け、事業の計画策定・測量調査・工事施工を行うものである。
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 公共投資の地方負担が大きく、経済対策の迅速かつ円滑な実施を図るため、国の経済対策の一つである「地域の元気臨時交付金」を活用し、地域経済の活性化を図ることを目的とする。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明					指標化できない成果
	工事等の総延長		工事等の延長を合計したもの					
	単位		H24	H25	H26	H27	将来目標 (年度：平成)	
m	目標			960				
	実績			521				
	達成度			54.3%				

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H24	H25	H26	H27	指標の説明
	工事等の総延長	計画	実績	m		960		
					521			
計画		実績						
計画		実績						

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

(単位：円)

		24年度決算	25年度決算	26年度決算	25年度予算	
全体コスト (円)	A 直接事業費	0	48,915,300	0	54,500,000	
	財源内訳	国県支出金		35,617,000		
		地方債		0		
		利用者負担		0		
		一般財源		13,298,300		
	B 人件費 ①×②	0	2,953,338	0		
	職員平均人件費①		5,906,676			
従事した割合②/人		0.50				
A + B		0	51,868,638	0		
単位コスト	活動指標の説明		道路延長1m当りのコスト 521m		備考	
	活動指標1単位当たりコスト		99,556		平成24年4月1日現在 人口40,876人	
	市民一人あたりのコスト		1,273		平成25年4月1日現在 人口40,733人	

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 高度成長期以降に整備したインフラが今後急速に老朽化するとされる。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 市民及び市議からの生活上で身近な道路等の整備・補修要望は多い。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	交通の安全確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全等、安心・安全な地域づくりを構築していくために必要である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	本事業は、国からの交付金を活用し、市道の安全確保するのは行政の責務である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	補助事業であり、歳出予算の削減が図れ、公共工事として入札を実施している。 また、再生資源(アスファルト・砕石等)を活用して、コスト削減を図っている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	経済基盤の強化や地域活性化等につながり、命と暮らしを守るインフラ再構築、生活空間の安全確保を図れることにより緊急性は高い。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	道路工事を実施することにより、通行の安全性の向上や排水路工事を実施することにより周辺地域の浸水対策が図れ、安全で安心なまちづくりを構築することができるため成果は上がっている。 平成25年度は下記の成果が得られた。 測定(3路線)、道路工事(1路線)、排水路工事(2路線)
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	市道整備は、安全で豊かな生活を確保するとともに、良好な社会環境を創出し、経済活動の向上を図るなど生活基盤を形成するものである。今後、急速に老朽化していくインフラに対して、整備を実施していく必要があるが、今後有利な事業(補助メニュー)を模索していくことが課題である。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	2	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	1	判定に至った理由	当該事業は、交通の安全確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全等を図れることから現状規模で継続することが妥当であると判断する。
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点				
		3 改善・効率化し継続	50 ~ 59 点				
		4 見直しの上縮小する	40 ~ 49 点				
		5 終期設定し終了	30 ~ 39 点				
		6 休 止	20 ~ 29 点				
		7 廃 止	19 点 以下				

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	2	1 拡 充 す る	判定説明	本市の市道整備については、市民の安全・安心で住みよいまちづくりに寄与することができることから引き続き事業を継続することは妥当であると判断するが今後有利な国の補助メニューを模索する必要がある。
		2 現状のまま継続する		
		3 改善・効率化し継続		
		4 見直しの上縮小する		
		5 終期設定し終了		
		6 休 止		
		7 廃 止		